

【第2回 島根県海岸保全基本計画検討委員会】議事要旨

日 時 : 平成 29 年 2 月 28 日 (火) 14:00 ~ 16 : 00

場 所 : 職員会館多目的ホール

出席者 : 河原委員、委員、委員、委員 (平本委員は欠席)

ページ数 (p.) は特に説明が無い限り「概要説明資料」のページを示している

(以下委員の意見概要を議事要旨として記載しています)

議事 (1) 第 1 回委員会意見への対応

(委員)

- 島根県沿岸は堤防が少ないようだが、粘り強い堤防の定義について一般にも分かる様、説明を追加して欲しい。

(委員)

- 河川環境や内水面等では動植物を列挙するなど生物多様性面をアピールしているが、今の本文は記載が少ない気がする。生物多様性面での記載をもう少し追加できないか。どこまで範囲を広げるかという問題はあるが、海が育む動植物をもう少しアピールしてはどうか。

(委員)

- 防護面はやるべきことが明確だが、環境の保全や景観への調和は具体的イメージが湧き難い。難しいとは思いますが、具体例を示せないか。

(委員)

- P24、具体的な実施計画を検討していく中で配慮する、住民の参画は非常に重要。基本計画の中でも出来るだけ明記し実施時に共通の方針として分かりやすくした方が良い。

(委員)

- 資料 4 - 1 p38 : ゾーン区分け、ゾーンの区域と名称を考えた経緯が知りたい。このゾーン区分毎に、基本計画の方針が打ち出せているかが重要

(委員)

- 関連して、行政区分毎にゾーン区分け、名称を決めるにあたって、委員会等での審議があったのではないかと考える。

(委員)

- ゾーン名とゾーン毎の基本方針の対応が見え難い。例えば、大田市でいえば、歴史ならば石見銀山や神話も入れることができるのではないか。市町村意見聴取についても、自分達のアピールをする気持ちで、その点について意見を言って欲しかった。意見聴取の際にそのような工夫が今後必要。

(委員)

- 資料 4 - 1 p46 の施設を新設・改良予定の海岸一覧など、今後の取り扱いが変化していくものは本文ではなく別紙にしてはどうか。対象海岸の変更など比較的軽微な変更でも委員会を開くことになるのではないか。

(委員)

- 資料 4 - 1 p18 の設計高潮高、設計津波高の比較があれば、高さだけでなく、水圧の違いを施設設計に反映する必要があるように思う。
- 地震の震度についての記載もないが、施設の耐震性も調べる必要があると思う。

議事(2) パブリックコメント・市町村意見への対応

(委員)

- 住民意見でユニバーサルデザイン(以下 UD)への追記があるが、海岸保全施設における UD の具体的なイメージはあるのか。施設整備の目的(住民や利用者の安全をいかにして守るか)を踏まえた上でユニバーサルデザインを考える必要がある。例えば、避難表示板など。特に、色表示は今後変わっていくと考えられる。バリアフリーとの違いも含めて UD で重要視すべきことを計画本文に盛り込めないか。
- 特に、災害時のアプローチ方法が疑問の施設も実際にある。施設の維持管理や点検のし易さへの配慮が重要になると考えている。

(委員)

- UD で最近の話題だと「温泉」のマークがあるが、インバウンドも意識した、外国人観光客等へ、「心の配慮」をすることが重要だと考える。

議事(3) 今後のスケジュール

(委員からの意見はなし)

【その他・全般】

(委員)

- 津波委員会での審議事項にはなるが、今後の市町村でのハザードマップ作成もあり、L2 津波の浸水想定図は UD に配慮したものであるが、島根県沿岸で出現割合の高い範囲の色合い(黄色系)が非常に分かり難い。別の色の図面も作成した方が良いのではないか。

(以上)